

Information

これから開催するイベント情報

11/27(水)

12:00~13:30

[オンライン開催]

私の経験やチャレンジが、誰かの原動力になる

みんなの経験共有会 vol.19

福祉の町田を担った市民たち第2弾
～町田ハンディキャブ友の会のあゆみ～

お申込みは
コチラ!



ゲスト一人ひとりの経験や挑戦を市民の知にしていく場として開催している「みんなの経験共有会」。2024年度は新たに「温故知新シリーズ」として、この先も町田で語り継いでいきたい活動をしている地域活動の先輩をゲストにお招きしじっくりとお話を伺います。今回もランチタイムの開催ですので、お昼休みにお楽しみください。

ゲスト

町田ハンディキャブ友の会

1982年に身体に障がいのある方や高齢の方など外出困難な方たちの外出を支援し、自立促進と行動範囲の拡大を目的として設立された会員制のNPOボランティア団体。通院・リハビリはもとより、お買い物・お食事・娯楽・文化活動等々、多岐にわたる外出を支援。令和5年度には、「パリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰・内閣府特命担当大臣表彰奨励賞」を受賞。



詳細は
コチラ!



11/30(土)
~12/8(日)



町田市役所開催イベント

11/30(土) 10:00~16:00

初日は、市庁舎でのオープニングイベントを実施!120を超える団体が大集合し、子どもから大人まで楽しめる様々な催しを開催します。



第18回町田市市民
協働フェスティバルまちカフェ!

市内で活動する市民・地域活動団体が実行委員会を立ち上げ企画・開催するピックイベントまちカフェ!の開催がいよいよ近づいてきました。今年度は144団体が参加し、150を越えるイベントが期間中に行われる、過去最大規模のまちカフェ!となります。それぞれのイベントを楽しむのはもちろん、次年度以降まちカフェ!の参加を検討されている方や団体の皆さんもぜひお越しください、活気あふれるまちカフェ!をご覧いただければと思います。

最新情報は
コチラ!



町田市内各地で開催するイベント

11/30(土)
~12/8(日)

市庁舎会場(平日一部)や市内各地の会場、団体の活動フィールドで趣向を凝らした展示やイベントが実施されます。



最新情報は
コチラ!



一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス

info@machida-support.or.jp

042-785-4871

月~金 午前9時から午後6時
(毎月第三水曜日は午後5時まで)

JR横浜線町田駅から(徒歩約5分) 小田急線町田駅から(徒歩約8分)

お車でお越しの場合は近隣の駐車場をご利用ください

相談
無料

事前
予約制



公式SNS 更新中



www.machida-support.or.jp



まちだづくりのコミュニケーション誌

サポートオフィス通信

2024 NOV

Vol. 53

Now

まちだづくりカレッジ
最終報告会を開催しました

Topics

参加者全員がもっと関わりたくなる
活動づくりのヒント

Information

これから開催するイベント情報

証書を手にした皆さんとの集合写真。まちだづくりカレッジは団体のビジョンが達成した日が卒業となるので、団体コース受講者には「まちだづくりカレッジ留年証書」を、ナリワイコース受講者には「修了証書」を贈呈しました。



Now

近況報告

まちだづくりカレッジ 最終報告会を開催しました

10月11日(金)、伴走型連続講座「まちだづくりカレッジ2024」の最終報告会を開催しました。「まちだづくりカレッジ」は、対話を軸しながら地域活動を担う団体や地域で活動する方を対象に、事業を進めるうえで必要となる知識を学ぶ5回にわたる連続講座です。この日は今年度受講された組織づくりコース(団体向け)4団体、ナリワイづくりコース(個人向け)8名と過去受講者など合わせて、27名の方が参加されました。

講座を通じて作成した事業計画や企画の発表後は、活発な質疑応答が行われ、各事業や企画をさらに深める時間となりました。最終報告会は一つの節目ではありますが、これからもサポートオフィスは皆さんの活動を引きつづき応援していきます。次年度もまちだづくりカレッジを開講する予定です。詳細が決まり次第、サポートオフィスのホームページでご案内していくのでご期待ください。



▲最終報告の様子。組織づくりコースは団体のビジョン・ミッション・バリューや中長期の目標などをまとめた事業計画書を、ナリワイづくりコースはこれから取り組む企画をポスター等にまとめて発表しました。

Memo 当日の会場



当日の詳しい様子や
発表資料はこちらから!



各コースについて

組織づくりコース

団体のビジョン・ミッション、ターゲット・ステークホルダー、事業の成果を検討し、事業計画(A3サイズ1枚)づくりを行います。また、団体運営に欠かせない広報や資源(資金)獲得に関する事項も学び、実践で活かせるカリキュラムで展開しています。

ナリワイづくりコース

〈自分の本当に好きなこと〉と〈地域の資源・地域のささいな困りごと〉をかけあわせ、地域で感謝と対価を得る仕づくりを目指します。事業の実践の場として11月30日(土)から開催する町田市市民協働フェスティバルまちカフェ!に出展します。

Topics 特集

参加者全員が もっと 関わりたくなる活動づくりのヒント

9月14日(土)、ぽっぽ町田にてまちだづくりサロン特別編「参加者全員がもっと関わりたくなる活動づくりのヒント」を開催しました。当日は28名にご参加いただきました。ここからは、当日の講演やワークショップを通じて見えてきた、誰もが安心しながら自分ごととして事業やイベント等に参加できる活動づくりのヒントをご紹介します。



講師 | 西川 正氏

学童保育、出版社、障害者団体、NPO支援センターなどの勤務を経て2005年にNPO法人ハンズ・オン埼玉を設立。元惠泉女子大学特任准教授。2022年4月より真庭市中央図書館館長。主な著書に『あそびの生まれる場所』(ころから、2019年度生協総合研究所特別賞受賞)がある。趣味は「カブリモノ」の製作。



講演会から探る

もっと 参加者全員が
関わりたくなる
活動づくりの

4つのヒント

HINT 01 安心を心がける

安心とは、例えば「仲間」がいること。「やったことがある」ことも安心材料です。安心が保障されると、人は「何かやってみよう」と思えるものです。安心は自分ひとりでは作れませんが、となりの人々に安心を与えることはできます。組織の中では、一番弱い立場の人が安心できる組織になっているか確認してみましょう。



HINT 02 あそびをつくる

あそびとは、〈余白や余裕〉のこと。一見不要不急ですが、なくてはならないものです。組織や活動の中では、みんなでわいわいでいる時間です。活動や組織に正解を設けないことが必要です。

HINT 03 答えではなく、応えを大事にする

人との関係を築くためには、「答え」ではなく「応え」が大切。たとえば、スマホ相談会で中学生がシニアの参加者のお悩みと一緒に悩むことで(「応え」することで)、問題がすぐに解決しなくとも(「答え」がなくても)、人はエンパワメントされ、関係性が深まります。



HINT 04 「持ち寄り」で場をつくる

みんなで持ち寄ることで、みんなが当事者になれ、参加できる場をつくれます。持ち寄るものは、食べ物以外に本や音楽などなんでもOKです。

ワークショップから探る もっと 参加者全員が 関わりたくなる 2つのヒント

HINT 01 対話を通じて安心を体感する トーカフォークダンス

トーカフォークダンスとは、フォークダンスのように円になり相手を変えながら多くの人と対話をするコミュニケーションの手法です。司会者からの問い合わせに1分ずつそれぞれが回答します。この日は体験版ということで、円にはならず2人一組で向き合い実施。「子どものとき、〈あれは楽しかったなあ〉という遊びの思い出を1つ教えてください」という問い合わせにそれが答えました。



参加者の声

「初めて」との方と話すのはあまり得意じゃなかったのですが、答えやすい問い合わせを交互に答えるスタイルだったので、1分では時間が足りないほど盛り上りました。

講演会では、このほかに講師と参加者の間で熱のこもった質疑応答も実施しました。
こちらからその様子もご覧いただけます!



講演会の中では、安心、持ち寄りの楽しさを体感する2つのワークショップが行われました。どちらも事前に準備するのもほとんどなく、手軽にできるので、皆さんの団体でも会議の前や新しいメンバーが入った際に実施してみてはどうでしょうか?

HINT 02 持ち寄りの楽しさ、〈当事者になれる〉を体感する 七輪ワークショップ

グループで取り囲んだ椅子の上に置いたA3用紙を七輪に見立て、付箋に〈七輪で焼きたいもの〉を書き、順番に「なぜそれを焼きたいか」を話します。誰でも話しやすい話題でありつつ、その方の個人的なエピソードも聞けるので、立場や所属を超えて盛り上がるワークです。



参加者の声

皆さんがあなたが本当に七輪で焼きたいものを語る姿が面白く、初対面の方とも旧知の仲のように親しく笑い話し合うことができ、本当に楽しかったです。

Column

もっと サポートオフィスが 見た! 聞いた! 体験した!

参加したくなる場づくりの 3つのヒント

HINT 01 場のしつらえ

無機質な会議室でも少しの工夫で「安心できる」「楽しめる」雰囲気づくりができます。お花を飾ったり、主催者が場の雰囲気にあわせた服装をしたり、ちょっとした工夫で雰囲気がぐっと変化します。花瓶などを持ってきてもらう、参加者に「●色を身に着けてきてね」と呼びかけて持ち寄ってもらうと参加度も深まります。机のレイアウトを円にして登壇者・参加者の垣根をなくすなどもおすすめです。会議の目的に合わせてちょっとした工夫をしてみましょう!

サポートオフィスが開催協力をしたフォーラムの準備風景。主催者メンバーがそれぞれ花瓶を持ち寄り、季節の花を生けて机に飾った。無機質な会議室での開催だったが、和やかな雰囲気の中開催することができた。

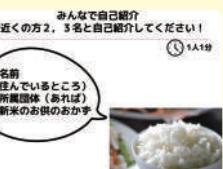


3つのヒント

このコラムは、講演会とは別にサポートオフィススタッフが普段の活動を通じて考える〈参加したくなる場づくりのヒント〉をご紹介します。

HINT 02 場のはじまり

会議のはじめの「アイスブレイク」は、参加者の気持ちを〈場〉に向かわせる大切なプログラム。自己紹介は定番ですが、名前や所属の他に「好きな食べ物」や「○○といえば」といった人となりが見える問い合わせを立てるのがおすすめ。長い会議の時には、途中で体を動かすアイスブレイクを取り入れると集中力を高めます。「手の高さでその日の元気度を聞く」といった短時間でできるものもあるので、いろいろと試してみましょう!



HINT 03 場のふかまり

何度か集まる機会がある会議などでは、次回までの宿題を出すのもおすすめ。「イベントのタイトルを考えるためのキーワードを考えてみた」といった簡単な宿題があるとみんなが知恵を持ち寄れます。次回までにその場を意識するので参加したい気持ちも深まります。



サポートオフィス主催(まちカフェ!インクルーシブ研究会)の様子。参加者が車座になって座ることで、お互いの顔を見ながら話し合いがしやすい環境を作ることを意識した。